

- MX-6000 CTIアダプター
- MX-6000-4C CTIアダプター

(USB2.0版)

取扱説明書

WINTEC

目 次

1. 安全にお使いいただくために	1
2. 各部の名称と働き	3
2-1. 正面パネル説明	3
2-1-1. MX-6000本体ユニット正面パネル	3
2-1-2. MX-6000-4C正面パネル	4
2-1-3. CPU動作状態表示詳細	4
2-1-4. 回線状態表示詳細	5
2-2. MX-6000本体ユニット後面	7
2-3. MX-6000-4C後面	8
2-4. CPUボード	9
2-5. MX-6000増設ユニット正面	11
2-6. 増設ユニット後面	11
2-7. アナログ局線ボード/BF (WBD663)	12
2-8. INS64STUボード/BF (WBD667) /INS64STボード/BF (WBD665)	13
2-9. INS1500ボード (WBD659)	14
2-10. アナログ内線ボード/BF (WBD664)	15
3. 接 続	16
3-1. MX-6000本体ユニット接続	16
3-2. MX-6000-4C本体接続	17
3-3. アナログ局線ボード/BF (WBD663) 接続	18
3-4. INS64STUボード/BF (WBD667) /INS64STボード/BF (WBD665) 接続	19
3-4-1. INS64U点接続	19
3-4-2. INS64S/T点接続	20
3-4-2-1. 終端設定と接続形態	20
3-4-2-2. 端子配置	22
3-4-2-3. 配線距離	22
3-5. INS1500ボード (WBD659) 接続	25
3-5-1. 挿入設置	25
3-5-2. 分岐接続	26
3-5-3. INS1500回線モニター (オプション)	26
3-6. アナログ内線ボード/BF (WBD664) 接続	27
3-7. 外部入出力信号の接続	28
4. BOARD NO 設定	29
5. 増 設	30
5-1. 基板増設	30
5-2. ユニット増設	31
6. 保守・点検	32
6-1. MX-6000保守・点検	32
6-2. MX-6000-4C保守・点検	32
7. アフターサービスについて	33
8. 仕 様	34
8-1. MX-6000本体ユニット仕様	34
8-2. MX-6000増設ユニット仕様	34

8-3. MX-6000-4C本体仕様.....	35
8-4. INS64STUボード/BF (WBD667) /INS64STボード/BF (WBD665) 仕様.....	36
8-5. アナログ局線ボード/BF (WBD663) 仕様.....	37
8-6. INS1500局線ボード (WBD659) 仕様.....	37
8-7. アナログ内線ボード/BF (WBD664) 仕様.....	38



1. 安全にお使いいただくために

お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい事項が記載してあります。

正しく使用するために、必ずお読みになり内容をよく理解された上で、お使いください。

取り扱いを誤ったために生じた本製品の故障／トラブルは、弊社の保証対象には含まれません。あらかじめご了承ください。

■使用している表示の意味

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、使用者がけがをしたり、物的損害の発生が考えられる内容を示しています。

本機器の使用によって生じたあらゆる損害については、直接あるいは間接的を問わず当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。



警告

■万一、異常な臭いがしたり、過熱や煙が出るといった場合は、ただちに使用をやめ、電源を切り、電源コードを抜いて弊社まで連絡ください。

■本装置を分解しないでください。

内部に電圧の高い部分があり感電の危険があります。 また、分解、改造された場合には修理に応じられない場合がありますのでご注意願います。

■電源コードを傷つけたり、加工しないでください。

電源コードが傷ついていたたり、破損している場合には、ただちに使用を止め、電源を切り、電源コードを抜いて購入先または弊社までご相談ください。

■濡れた手で電源コードの抜き差しはしないでください。

感電の危険があります。

■使用電圧、使用温度、湿度等は巻末の仕様一覧に記載されている定格範囲内でご使用ください。

定格外でご使用になられますと火災、故障の原因となります。

■腐食性ガス雰囲気の中でのご使用、保管はしないでください。

火災や故障の原因となります。

■電源は必ずAC100Vを使用してください。

交流100V以外の電源で使用すると、火災や感電の原因となります。



注意

■不安定な場所には置かないでください。

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。

■本装置の放熱ファンをふさがないでください。

内部温度が上昇し、故障または寿命の低下の原因となります。

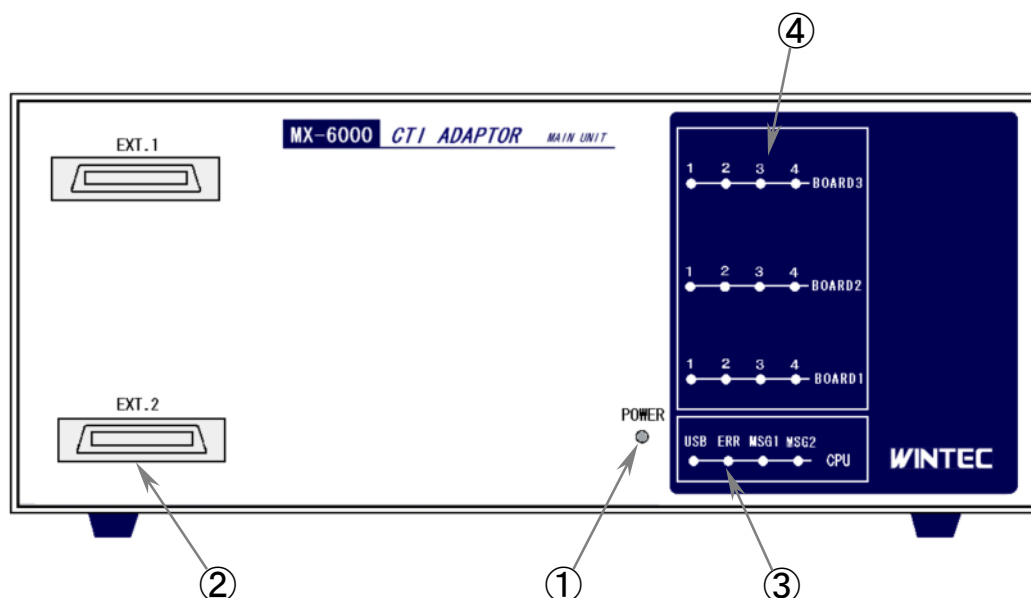
■モジュラーコネクタ、USBコネクタおよび増設ユニット接続コネクタ等に異物を挿入しないでください。

感電や故障の原因となります。

2. 各部の名称と働き

2-1. 正面パネル説明

2-1-1. MX-6000本体ユニット正面パネル



①電源表示LED（赤）

AC100V電源投入時点灯します。

②増設ユニット接続コネクタ（EXT1, EXT2）

増設ユニットを専用ケーブルで接続する為のコネクタです。

*増設ユニットおよび専用ケーブルは、オプションとなっています。

③CPU状態表示LED

PCとの通信および回線ボード（全60CH）を統括制御するCPUボードの動作状態および検出状態を表示します。

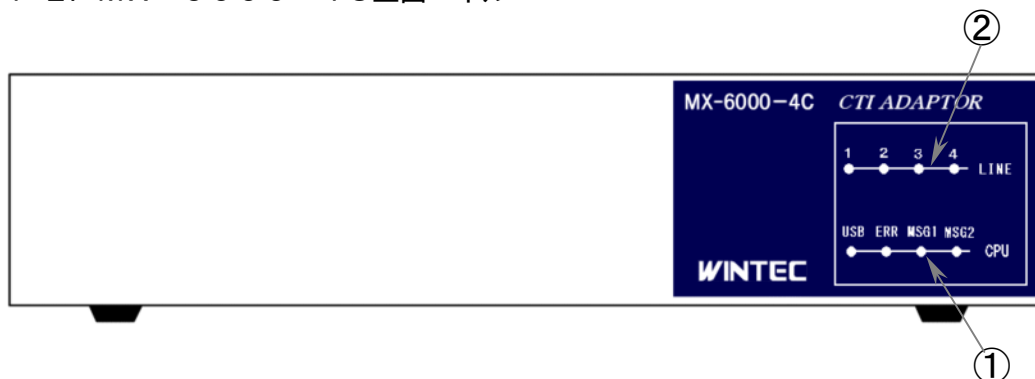
*「CPU動作状態表示詳細」を参照願います。

④回線状態表示LED

回線ボード（アナログ局線、INS64、INS1500、アナログ内線）の動作状態を表示します。

*「回線状態表示詳細」を参照願います。

2-1-2. MX-6000-4C正面パネル



①CPU状態表示LED

PCとの通信および回線ボードを統括制御するCPUボードの動作状態および検出状態を表示します。

＊「CPU動作状態表示詳細」を参照願います。

②回線状態表示LED

回線ボード（アナログ局線ボード、INS64ボード）の動作状態を表示します。

＊「回線状態表示詳細」を参照願います。

2-1-3. CPU動作状態表示詳細

「USB」は単独表示で状態を表し、「ERR」「MSG1」「MSG2」は組み合わせで状態を表します。

電源投入後の初期化中は「全LED赤点灯（約1秒）」→「全LED緑点灯（約1秒）」→「USB青点灯（約1秒）」→「MSG1/2 橙点灯」後、運用状態となります。

USB	ERR	MSG1	MSG2	意 味
オフ	—	—	—	本機がPCと接続されていない事を表します。
橙点灯	—	—	—	本機がPCと接続された事を表します。
緑点灯 青点灯	—	—	—	本機を使用したPCアプリケーションが起動した事を表します。 緑=USB1.1 青=USB2.0
赤点灯	—	—	—	0.5秒間点灯：音声転送でエラーが発生した事を表します。 ＊多発するようであれば、短いUSBケーブルを使用してください。
—	橙 早い点滅	橙 早い点滅	橙 早い点滅	回線ボードが1枚も実装されていないことを表します。
—	赤 早い点滅	橙 早い点滅	橙 早い点滅	ID番号が重複していることを表します。 実装されている「BOARD NO」を確認してください。 ＊回線ボード2枚実装時にID番号が重複している場合は、「回線ボード未実装」表示となります。
—	赤 早い点滅	赤 普通点滅	赤 普通点滅	登録されているパラメータのバージョンとMC-CPU制御プログラムの対応パラメータバージョンが違っていることを表します。 この場合CH制御は完全に停止していますので、正規のバージョンのフラッシュ書込みを行ってください。
—	—	—	緑(赤) 点滅	PCアプリケーションとW/D監視を実行している事を表します。 緑点滅：正常動作中 赤点滅：W/Dエラー発生中

＊早い点滅：120ms ON/OFF

普通点滅：520ms ON/OFF

2-1-4. 回線状態表示詳細

回線単位またはCH単位で回線状態を表示します。(緑、橙、赤の点灯、点滅)

*INS1500は回線単位となります。

■アナログ、INS64の場合

LED 名称	色	意 味		
1～4		アナログ局線ボード	アナログ内線ボード	INS64ボード
	緑点灯	正常待機中である事を表します。	正常待機中である事を表します。	正常待機中である事を表します。(レイヤ1 正常) *レイヤ2の状態は反映されません。
	橙点滅 0.1S ON/OFF	着信における呼出し中であることを表します。 *極性反転中	端末機器への呼出し中であることを表します。	着信または発信における呼出し中であることを表します。
	橙点灯	後位端末がオフフック中または本機が自動応答中である事を表します。	端末機器がオフフック中である事を表します。	後位端末が着信・発信において通話中または本機が自動応答中である事を表します。
	赤点灯	回線不良またはオープンであることを表します。	回線アラーム(地絡)またはオフラインであることを表します。	局との同期が成立していない事を表します。
	赤点滅	電源投入時の初期化中に後位端末が通話中である事を表します。 (0.2S ON/OFF)	パラメータ設定がポート未使用となっている事を表します。 (0.7S ON/OFF)	—
	赤緑点滅 赤 0.5S 緑 0.5S	—	—	局からの信号は検出できているが、端末からの信号が検出できていない事を表します。
	赤緑点滅 赤 0.2S 緑 0.8S	—	—	端末動作を使用する設定において後位端末との同期が成立していない事を表します。
	赤緑点滅 赤 0.9S 緑 0.1S	—	—	S/Tスルーモニタ設定でTxとRxが逆接続である事を表します。
	緑点滅 0.5S ON/OFF	—	—	P-P回線において「端末動作を使用する」設定となっている事を表します。 (TEI 取得失敗)
	緑点滅 0.1S ON/OFF	—	—	お待たせ／アナウンス後PBX呼出し設定において、TEIが3つ以上検出された事を表します。

*電源投入後の初期化中のLEDは緑点滅となりますが、アナログ回線において初期化中に着信検出(IR)となった場合は「橙点滅」、通話状態は「赤点滅」となります。

回線未使用となった時点で再度、初期化处理(緑点滅)を実行します。

*INS64回線では、初期化中の着信検出および通話検出は有りません。

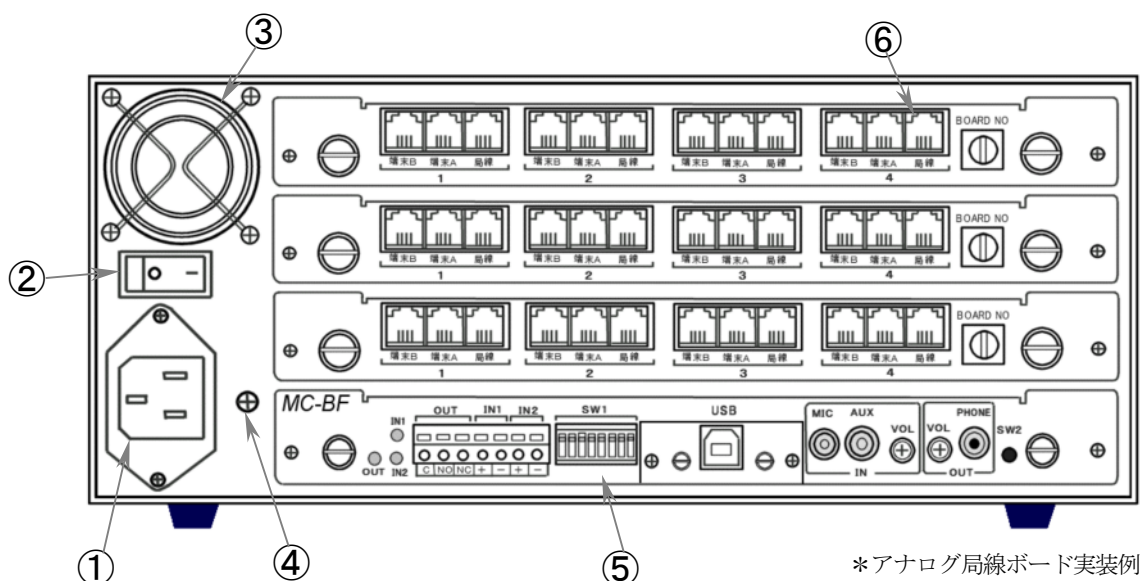
■INS1500の場合

LED	内容	色	状態	意 味
1	局(DSU)の 電気的狀態 (レイヤ1)	赤点灯		DSUが接続されていないことを表します。
		橙点灯		何らかの信号は検出しているが同期確立していない、または警告信号を検出した事を表します。 ※詳細は、オプションの「INS1500 回線モニター」に表示されます。
		緑点灯	○	正常に動作している事を表します。
2	端末の 電気的狀態 (レイヤ1)	赤点灯		端末が接続されていない、または電源オフであることを表します。
		橙点灯		何らかの信号は検出しているが同期確立していない、または警告信号を検出した事を表します。 ※詳細は、オプションの「INS1500 回線モニター」に表示されます。
		緑点灯	○	正常に動作している事を表します。
		緑点滅	※1	後位端末は未接続または正常動作していないが、本機が自端末動作(IVR等)設定されている事を表します。
3	Dch検出・ 認識狀態	消灯		接続回線のDchが未検出である事を表します。
		青点灯	○	接続回線でDch検出された事を表します。
4	通話狀態 (レイヤ2,3)	消灯		レイヤ2データリンクが確立していない事を表します。 確立すれば以下のいずれかの状態になります。
		緑点灯	○	接続回線のBchは全て空き状態です。
		橙点滅	○	接続回線のBchを使用した[呼出中]の呼が存在します。
		橙点灯	○	接続回線のBchを使用した[通話中]の呼が存在します。(優先)
		赤点滅		エラーを検出した事を表します。 エラー検出時、回線はオフライン(局と端末直結状態)となります。 [エラー内容例] ・着信Dch保留設定なのに任意チャンネル着信検出。 ※詳細は、オプションの「INS1500 回線モニター」に表示されます。
1 ～ 4	ボード初期 狀態	緑(青) 赤	○ 	電源投入直後はLED1→2→3→4→1・・・と順番に点滅します。 この段階では回線はオフライン(局と端末直結状態)となっています。 緑(青)の点滅は正常ですので、直ぐに他の状態に変わります。 *赤(LED3は点灯しません)の点滅はハード異常です。 弊社まで連絡願います。

○正常状態である事を表します。

※1. 後位端末(PBX等)を接続しない動作環境を前提としたシステムの場合は問題ありません。

2-2. MX-6000本体ユニット後面



*アナログ局線ボード実装例

①AC100Vインレット

AC100V入力用のインレットソケットです。 付属の電源ケーブルを接続します。

【注意】 電源ケーブルを接続する場合は必ず電源スイッチをOFFにしてください。

②電源スイッチ

機器の電源のON/OFFを行います。 “—”表示側がONとなります。

*アナログ局線ボード、またはINS64S/T点接続（スルーモニターモード）では、後位端末通話中の電源ON/OFFにおいても通話は継続されますが、その他の回線ボード、動作モードでは設置環境によっては通話が切断される場合がありますのでご注意ください。

③冷却ファン

本機冷却用のファンです。

【注意】 障害物にてファンの前面をふさがないようにご注意ください。 内部が高温になり機器の破損、寿命の低下の原因となります。

④接地端子

本機器を接地する為の端子です。

電話回線用のアースに接続してください。

【警告】 火災や感電の原因となりますので、ガス管や水道管、避雷針などに接続しないでください。

⑤CPUボード

PCとのUSB通信および回線ボード（全60CH）を統括制御するボードです。

*パネル詳細は、「CPUボード説明」の項を参照願います。

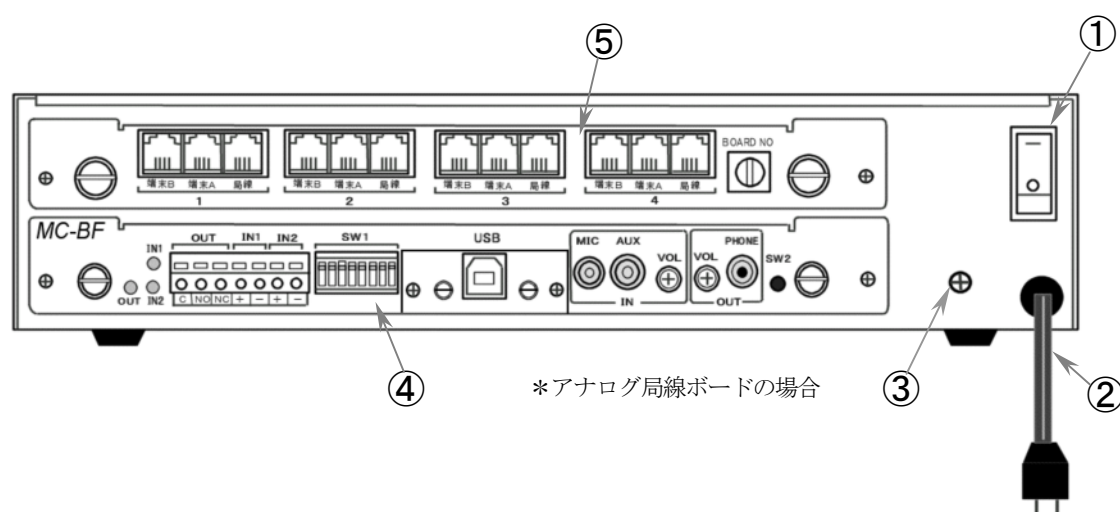
*CPUボードは、本体ユニットにのみ搭載されています。（増設ユニットには搭載されません。）

⑥回線ボード

アナログ局線、INS64/1500局線ボード、アナログ内線ボードのいずれか3枚を実装可能です。最上部が前面パネルのBOARD3に対応します。

*パネル詳細説明は、各回線ボードパネル説明を参照願います。

2-3. MX-6000-4C後面



①電源スイッチ

機器の電源のON/OFFを行います。 ” — ” 表示側がONとなります。

*アナログ局線ボード、またはINS64S/T点接続（スルーモニターモード）では、後位端末通話中の電源ON/OFFにおいても通話は継続されますが、その他の回線ボード、動作モードでは設置環境によっては通話が切断される場合がありますのでご注意ください。

②電源ケーブル

AC100V電源ケーブルです。

電源コンセントに差し込む時は、①電源スイッチをオフ（O）にしてください。

③接地端子

本機器を接地する為の端子です。

電話回線用のアースに接続してください。

【警告】 火災や感電の原因となりますので、ガス管や水道管、避雷針などに接続しないでください。

④CPUボード

PCとのUSB通信および回線ボード（アナログ、INS64）を統括制御するボードです。

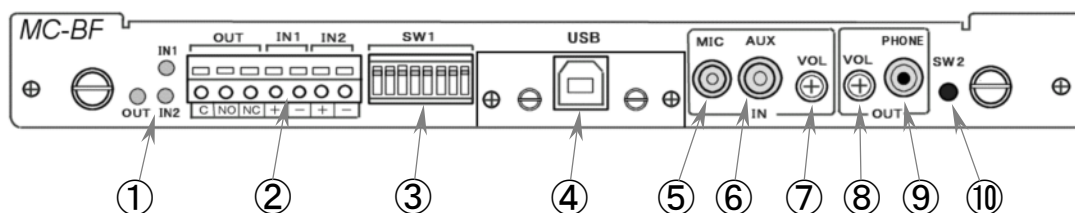
*パネル詳細は、「CPUボード説明」の項を参照願います。

⑤回線ボード

アナログ局線ボードまたはINS64局線ボードが実装されています。

*パネル詳細説明は、各回線ボードパネル説明を参照願います。

2-4. CPUボード



①外部入出力表示LED（緑）

外部入出力端子の状態を表示します。 外部入出力信号ONで点灯します。

②外部入出力端子（入力2点、出力1点）

外部信号を取り込む為の入力端子（2点）およびリレー出力（a接、b接）端子です。

*入力端子には、無電圧信号を入力してください。

③設定DIPスイッチ

本機器の動作設定の為のスイッチです。

スイッチ	内 容															
1～4	*システムで使用しています。出荷時設定でご使用ください。(出荷時設定＝OFF)															
5	必ずOFFとしてください。(出荷時設定＝OFF)															
6	OFF：通常はこちらで使用してください。 ON：擬似的に番号情報、通信情報を通知するシミュレーションモードとなります。															
7、8	USBの転送速度および音声転送(再生・録音)可能CH数を設定します。 <table><tr><th>SW8</th><th>SW7</th><th>内 容</th></tr><tr><td>OFF</td><td>OFF</td><td>USB1.1 音声転送可能CH＝60CH＋システム使用CH</td></tr><tr><td>OFF</td><td>ON</td><td>USB1.1 音声転送可能CH＝28CH</td></tr><tr><td>ON</td><td>OFF</td><td>USB1.1 音声転送可能CH＝60CH(システム使用のCH無し)</td></tr><tr><td>ON</td><td>ON</td><td>USB2.0 音声転送可能CH＝60CH＋システム使用CH</td></tr></table> <p>*USB1.1設定時は、従来(USB1.1専用)のドライバーでも動作します。</p>	SW8	SW7	内 容	OFF	OFF	USB1.1 音声転送可能CH＝60CH＋システム使用CH	OFF	ON	USB1.1 音声転送可能CH＝28CH	ON	OFF	USB1.1 音声転送可能CH＝60CH(システム使用のCH無し)	ON	ON	USB2.0 音声転送可能CH＝60CH＋システム使用CH
SW8	SW7	内 容														
OFF	OFF	USB1.1 音声転送可能CH＝60CH＋システム使用CH														
OFF	ON	USB1.1 音声転送可能CH＝28CH														
ON	OFF	USB1.1 音声転送可能CH＝60CH(システム使用のCH無し)														
ON	ON	USB2.0 音声転送可能CH＝60CH＋システム使用CH														

④USB接続コネクタ

付属のUSBケーブルにてPCに接続します。

USBケーブルがPCに接続されるまでは、本体ユニット正面パネルの「USB」LEDはオフとなります。

【注意】 USB1.1で運用される場合、他のUSBデバイスを接続しないでください。
本機の通信に影響を与え、正常に動作しなくなる場合があります。

※USB2.0で運用される場合でも、可能な限り他のUSBデバイスを接続されない事をお勧めします。

⑤マイク入力端子

音声自動応答時の再生メッセージ作成に使用します。

また、マイクからの音を直接回線に送出することが出来ます。

*マイクは添付されませんのでお客様にてご準備ねがいます。

*3.5φステレオミニプラグのコンデンサマイクをご使用願います。

(ダイナミック型マイクの場合、ご使用になれない場合が有りますのでご注意願います。)

*入力された音は、L・R加算されたモノラルとなります。

*他の形状プラグの場合は、ステレオミニプラグへの変換アダプター（市販品）をご使用願います。

⑥オーディオ入力端子

マイク入力端子と同様、再生メッセージ作成の音源としてオーディオ機器を接続します。

⑦入力ボリューム

マイク、オーディオ入力信号レベルを調整します。 右に回すと音が大きくなります。

*先の細いマイナスインプー等で調整します。

⑧出力ボリューム

PHONE出力レベルを調整します。 右に回すと音が大きくなります。

⑨PHONE出力端子

再生音声の確認や回線音のモニター等を行う為のヘッドフォン端子です。

市販のヘッドフォン等を接続してください。

*3.5φステレオミニプラグのヘッドフォンをご使用願います。

*他の形状プラグの場合は、ステレオミニプラグへの変換アダプター（市販品）をご使用願います。

*入力インピーダンス16Ω以上のヘッドフォンをご使用願います。

<p>【注意】 ヘッドフォンを装着したまま本機の電源を投入しないでください。 過大なクリック音が出力される場合があります。</p>
--

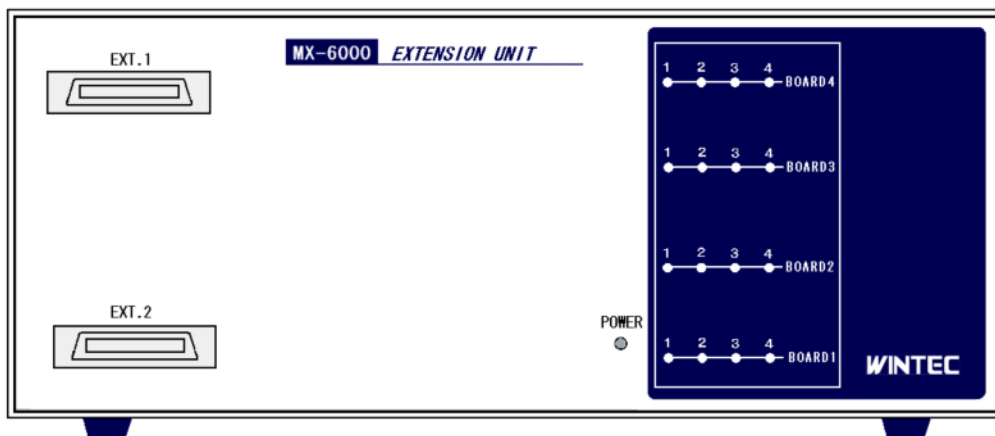
⑩SW2（プッシュスイッチ）

本スイッチをONすることによりシミュレーションを開始します。

シミュレーションの内容は、内部パラメータ設定により異なります。

*DIP スイッチ6がONの時シミュレーション動作有効となります。

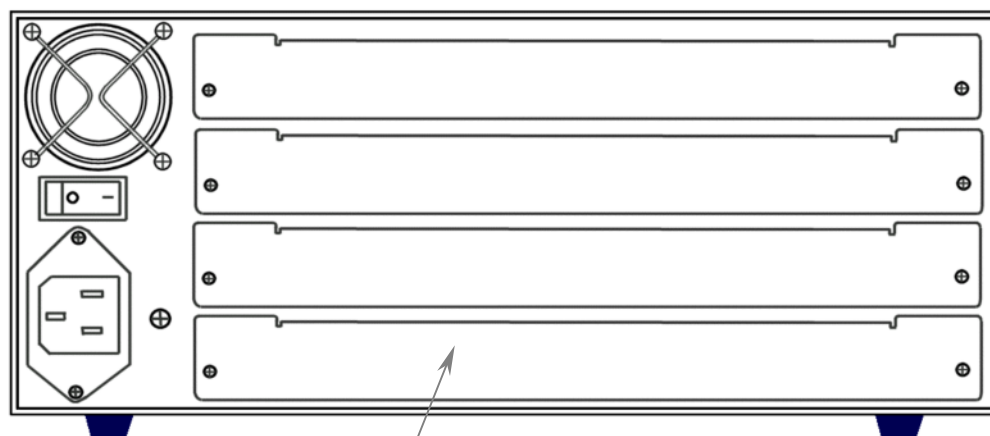
2-5. MX-6000増設ユニット正面



増設ユニットにはCPUボードが実装されませんので、動作表示LEDの「CPU」が「BOARD1」となる以外「本体ユニット」と同一です。

*本体ユニットを参照願います。

2-6. 増設ユニット後面



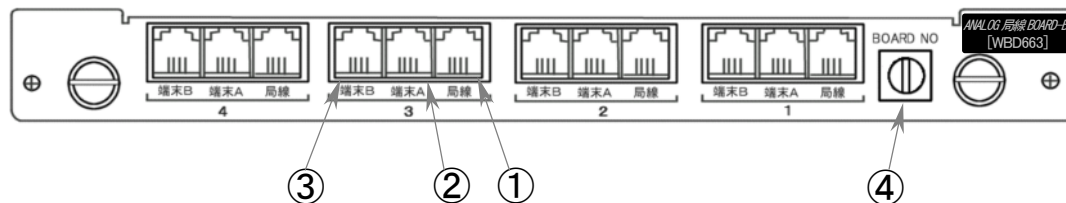
ブランクパネル

*初期未実装状態

増設ユニットには回線ボードが4枚実装可能です。それ以外は「本体ユニット」と同一ですので、本体ユニット説明を参照願います。

2-7. アナログ局線ボード/B F (WBD663)

アナログ一般公衆回線に接続し、ナンバーディスプレイ、ダイヤルイン等の情報情報の取得、通話録音および自動応答等を行うボードで、アナログ4回線に対応します。



①局線

アナログ回線に接続します。NTT仕様に準拠している必要があります。

②端末A

アナログ対応の端末機器（PBX・主装置、電話機等）を接続します。

通常（出荷時設定）は、こちらに端末機器を接続します。

＊電源断時は、「局線」と「端末A」が直結となります。

③端末B

標準出荷では、本ポートは使用する事は出来ません。

ご注文時に「アナログ局線ボード（WBD633）仕様」としてご注文された場合のみご使用になれます。但し、その場合にはハンドセットアダプターおよび発信制御（発信規制）機能は使用する事は出来ませんのでご注意ください。

●アナログ局線ボード（WBD633）仕様とした場合

端末Aと同様、アナログ対応の端末機器（PBX・主装置、電話機等）を接続できます。

着信毎に端末A、端末Bを切り替える事が出来ます。

「注意」

端末A接続中、端末Bは無給電となります。

【注意】 モジュラーケーブルを接続するときには、局線、端末が逆にならないよう十分に注意してください。故障の原因となります。

④BOARD NO

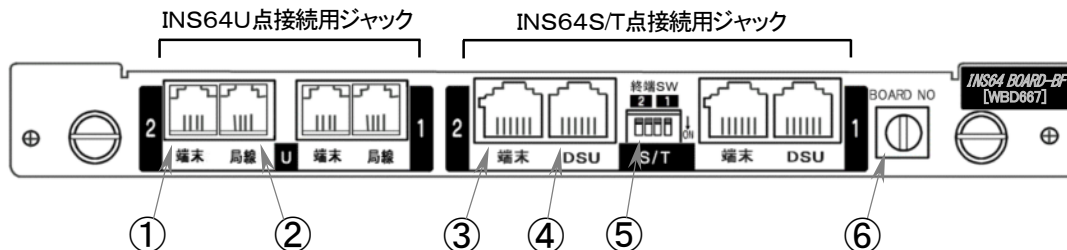
実装するボード番号（0～E）を設定します。

＊詳細は「BOARD NO設定」の項を参照願います。

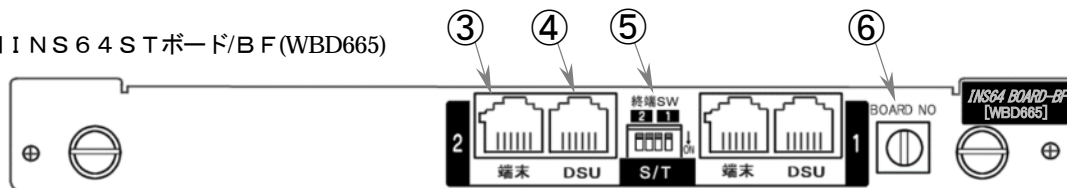
2-8. INS64STUボード/BF (WBD667)／INS64STボード/BF (WBD665)

INS64S/T点またはINS64U点に接続し、各種情報の取得、通話録音および自動応答等を行うボードです。INS64-2回線(4ch)に対応します。

■INS64STUボード/BF (WBD667)



■INS64STボード/BF (WBD665)



①端末 (RJ11) *INS64U点接続用

DSU内蔵のINS64対応デジタル端末(PBX・主装置等)を接続します。

*端末機器までの配線距離は500m以内(Φ0.5mm以上)としてください。

(Φ0.5mm以下のケーブルを使用される場合は、300m以内となります。)

②局線 (RJ11) *INS64U点接続用

INS64回線をモジュラーケーブルにて接続します。

③端末 (RJ45) *INS64S/T点接続用

INS64対応デジタル端末(PBX・主装置等)のS/T点端子に接続します。

④DSU (RJ45) *INS64S/T点接続用

外部DSUのS/T点端子に接続します。

※③端末、④DSU共にLANケーブル(カテゴリ5:100BASE-TX、ストレート)を使用される場合は必ず「INS64対応品」をご使用願います。 *ケーブル長にご注意願います。

⑤終端SW

S/T点接続における終端を設定します。

1 (SW3、4) ----- 回線1の終端を設定します。ON=終端有り OFF=終端無し

2 (SW1、2) ----- 回線2の終端を設定します。ON=終端有り OFF=終端無し

*DSUから一番遠い端末機器の終端をONにします。

*SW1、2およびSW3、4は同じ設定にしてください。

⑥BOARD NO

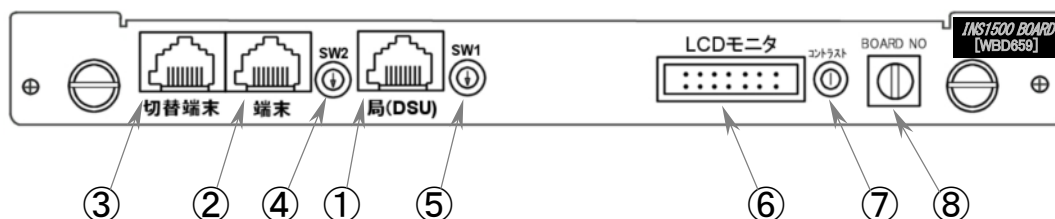
実装するボード番号(0~E)を設定します。

*詳細は「BOARD NO設定」の項を参照願います。

【注意】 U点接続とS/T点接続を混在して使用する事は出来ません。 また、局側をU点、端末側はS/T点といったDSU的な接続も出来ませんのでご注意願います。

2-9. INS1500ボード(WBD659)

INS1500回線に接続し、各種情報の取得、通話録音および自動応答等を行うボードです。



①局（DSU）

INS1500DSUに接続するためのジャックです。

*RJ48（IS10173）モジュラー

②端末

既存のINS1500対応デジタル端末（PBX等）に接続するためのジャックです。

*RJ48（IS10173）モジュラー

MX-6000電源断時には、①局（DSU）と直結になります。

通常はこちらのジャックを使用します。

③切替端末

INS1500対応デジタル端末（PBX等）を接続するためのジャックです。

*RJ48（IS10173）モジュラー

異常監視システム等で予備端末（INS1500 端末）への切替等が必要な場合使用します。

④⑤SW1、SW2（コードスイッチ）

回線コンフィグレーションスイッチで、局側、端末側の接続ケーブルが長く品質に問題がある場合に設定します。 オプションの「INS1500回線モニター」の回線品質表示値により判断します。

通常、出荷時設定「0」で問題ありません。（SW1＝局側回線／SW2＝端末側回線）

⑥LCDモニター

オプションの「INS1500回線モニター」を接続する場合に使用します。

*INS1500回線モニター：24CHの状態表示、回線品質表示を行う表示器です。

⑦コントラスト

「INS1500回線モニター」の液晶コントラスト調整ボリュームです。

時計方向に回すとコントラストが強くなります。先の細いマイナスドライバー等で見やすい位置に調整してください。

⑧BOARD NO

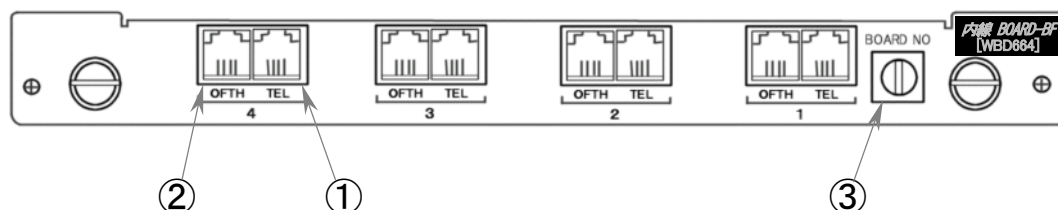
実装するボード番号（0～E）を設定します。

2-10. アナログ内線ボード/B F (WBD664)

アナログ局線、INS 64ボード、または1500ボードとセットで使用し、PC-PBX等を実現する為のNTT局仕様に準拠した4回線ボードです。

*本ボードは、MX-6000のみ対応します。

MX-6000-4Cではアナログ内線ボードはサポートされていません。



①TEL

NTTアナログ交換機仕様に準拠し、付加サービスとしてナンバーディスプレイサービス、ダイヤルイン（PB、モデム）等をサポートします。

アナログ端末機器（PBX・主装置、電話機等）を接続します。

*6極2芯モジュラーケーブルにて接続します。

②OFTH

本機電源断時に「TEL」と直結になる端子です。

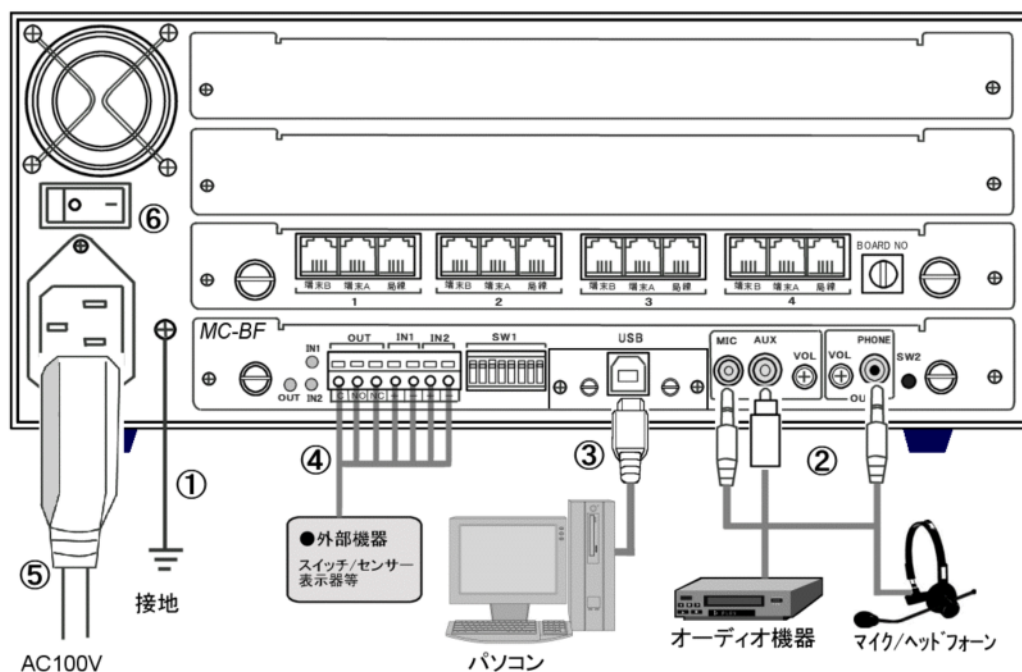
③BOARD NO

実装するボード番号（0～E）を設定します。

*詳細は「BOARD NO設定」の項を参照願います。

3. 接 続

3-1. MX-6000本体ユニット接続



①アース端子を接地してください。

後位端末機器（PBX・主装置等）が接続される構成の場合には、後位端末機器のアース端子に接続してください。

【警告】 火災や感電の原因となりますので、ガス管や水道管、避雷針などに接続しないでください。

②音声ガイダンスの作成、音声モニター等を行う場合は、マイク、ヘッドフォンおよびオーディオ機器を接続してください。

③付属のUSBケーブルにてパソコンと接続してください。

ケーブルが短い場合は、市販のUSBケーブルを使用してください。

市販のUSBケーブルを使用する場合は、可能な限り短いケーブルとしてください。

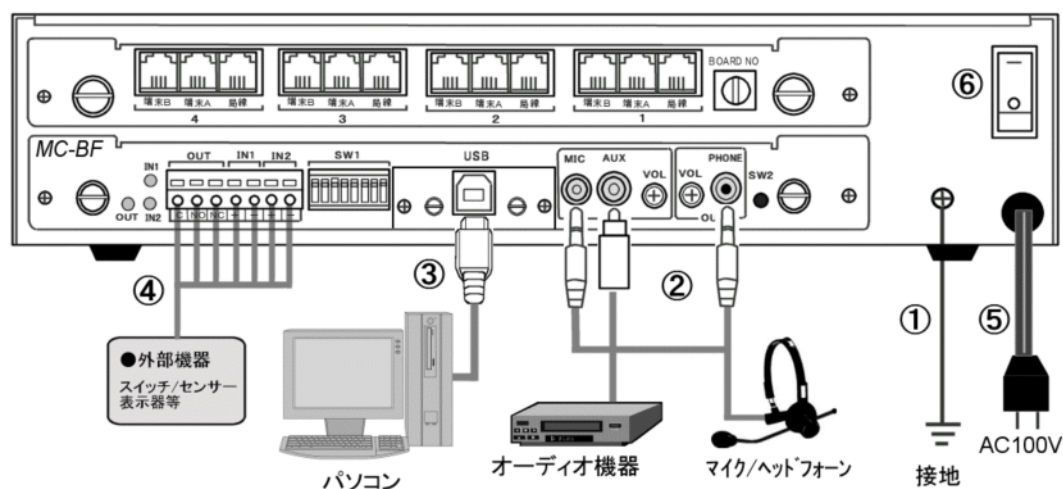
④外部信号の取り込みおよび接点信号出力を使用する場合、外部入出力端子に接続してください。

⑤付属の電源ケーブルを接続します。

接続するときは必ず電源スイッチをオフ（O側）になっていることを確認してください。

⑥電源スイッチをON（一側）してください。

3-2. MX-6000-4C本体接続



①アース端子を接地してください。

後位端末機器（P B X ・主装置等）が接続される構成の場合には、後位端末機器のアース端子に接続してください。

【警告】 火災や感電の原因となりますので、ガス管や水道管、避雷針などに接続しないでください。

②音声ガイダンスの作成、音声モニター等を行う場合は、マイク、ヘッドフォンおよびオーディオ機器を接続してください。

③付属のUSBケーブルにてパソコンと接続してください。

ケーブルが短い場合は、市販のUSBケーブルを使用してください。

市販のUSBケーブルを使用する場合は、可能な限り短いケーブルとしてください。

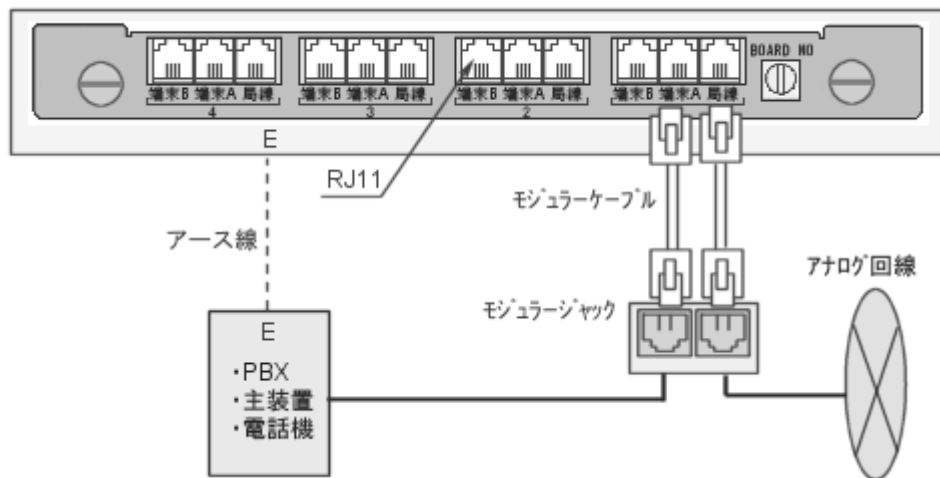
④外部信号の取り込みおよび接点信号出力を使用する場合、外部入出力端子に接続してください。

⑤付属の電源ケーブルを接続します。

接続するときは必ず電源スイッチをオフ（O側）になっていることを確認してください。

⑥電源スイッチをON（一側）してください。

3-3. アナログ局線ボード/B F (WBD663) 接続



一般アナログ公衆回線を「局線」モジュラージャックに、端末機器（PBX・主装置、電話機等）を「端末A」にモジュラーケーブルにて接続します。（RJ11）

*標準出荷では「端末B」は使用する事が出来ません。「端末B」を使用するシステムでは、「アナログ局線ボード（WBD633）仕様」としてご注文していただく必要があります。

但し、その場合には、ハンドセットアダプターおよび発信制御（発信規制）機能は使用する事は出来ません。

【注意】 モジュラーケーブルを接続するときには、局線、端末が逆にならないよう十分に注意してください。故障の原因となります。

*4回線以下で運用される場合には、「1」～「4」のどちらかに接続されても動作には影響ありませんが、PCへ通知されるCH番号が異なります。（「BOARD NO の設定」の項を参照願います。）

●PBX・主装置のL1，L2への接続は、工事前と同一極性となるようお願い致します。

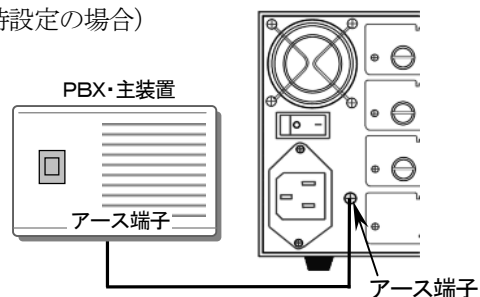
●接続工事はMX-6000電源断状態で行い、PBX・主装置が正常に動作する事を確認してください。

MX-6000電源断状態では、裏面モジュラージャックの「局線」と「端末A」は、同一端子間が直結となります。

●局線への接続では、L1／L2の極性を考慮する必要は有りません。

MX-6000電源投入時に自動検出となります。（出荷時設定の場合）

●MX-6000とPBX・主装置とのアースは必ずしも接続する必要は有りませんが、設置後の接続が容易となる様に工事の段階から配慮願います。

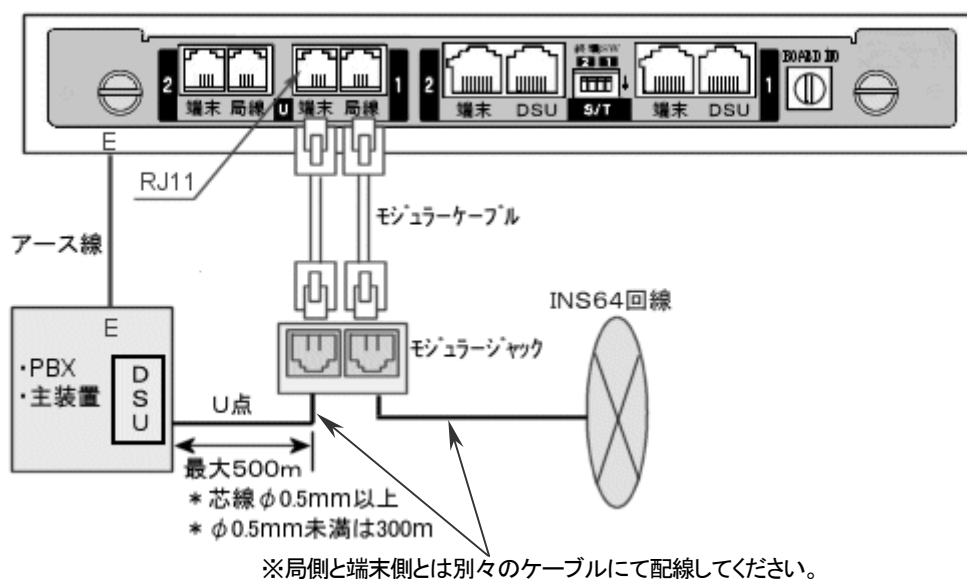


3-4. INS64STUボード/BF (WBD667)／INS64STボード/BF (WBD665) 接続

INS64STUボード/BFは、INSネット64のU点インターフェースと、S/T点インターフェースを有していますが、下記ご注意願います。

- U点接続とS/T点接続を同時に使用する事は出来ません。＊同時に接続しないでください。
- 局側をU点、端末側はS/T点といったDSU的な接続は出来ません。
- U点ジャック、S/T点ジャックのどちらに回線が接続されているかは自動認識となります。
＊特別な設定スイッチはありません。

3-4-1. INS64U点接続



■INS64回線ーモジュラージャック（ローゼット）、モジュラージャックーPBX・主装置までの配線に多芯ケーブルを使用される場合は、2芯ペアを間違わないようにしてください。

また、局線の減衰が大きい場合や多芯ケーブル長が長い場合は、誤動作の原因となりますので、局側と端末側の多芯ケーブルは分離してください。（別ケーブルを使用）

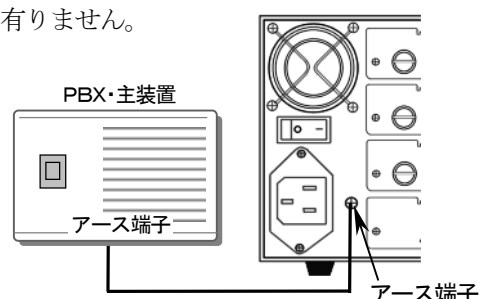
■接続工事は、MX-6000電源断状態で行ってください。

MX-6000電源断状態では、モジュラージャックの「局線」と「端末」が直結状態となります。接続完了後、電源断状態のまま発信・着信が正常に動作する事を確認してください。

■「局線」への接続では、L1/L2極性を考慮する必要は有りません。

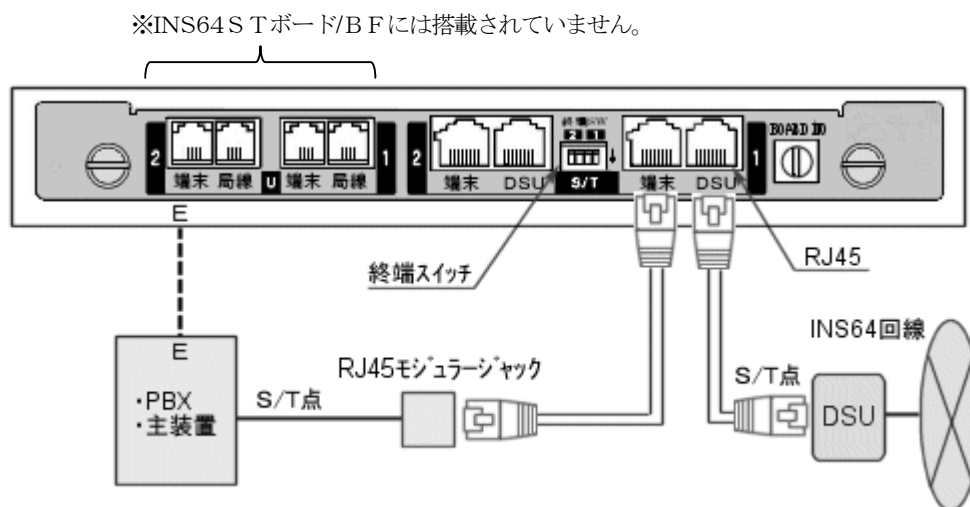
MX-6000電源投入時に自動検出となります。

■MX-6000とPBX・主装置の回線アースを接続してください。



■1回線で運用される場合には、「1」「2」のどちらに接続されても動作には影響ありませんが、PCへ通知されるCH番号が異なります。（「BOARD NO の設定」の項を参照願います。）

3-4-2. INS64 S/T 点接続



■DSUのS/T点を「DSU」に、INS64 端末機器を「端末」に接続します。

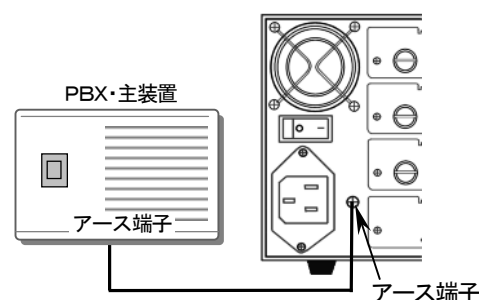
*システムの仕様によってはバス接続も可能です。

■DSU、端末共に8ピンモジュージャック（RJ45）です。一般電話機用の6ピンモジュージャックケーブルを挿入しないでください。

■本機に接続するケーブルで、LANケーブル（カテゴリ5：100BASE-TX、ストレート）を使用される場合は必ず「INS64 対応品」をご使用願います。*ケーブル長にご注意願います。

■MX-6000とPBX・主装置とのアースは必ずしも接続する必要は有りませんが、設置後の接続が容易となる様に工事の段階から配慮願います。

※動作モードが「擬似スルー」の場合は、アース接続してください。（HA-100 を使用、着信制御する等）



■電源断時は、DSU - 端末間は直結となります。

*1回線で運用される場合には、「1」「2」のどちらに接続されても動作には影響ありませんが、PCへ通知されるCH番号が異なります。

（「BOARD NO の設定」の項を参照願います。）

3-4-2-1. 終端設定と接続形態

(1) 終端設定

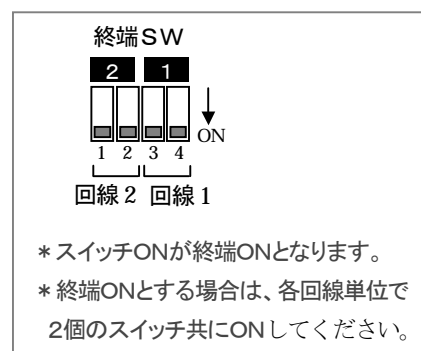
終端設定は、設置構成により異なります。

S/T 点接続においては、DSU から一番離れた機器の終端を ON にします。

*接続形態の終端設定を参照願います。

*MX-6000 動作モードが擬似スルーモード/自動応答モードの場合は、MX-6000 電源断の時に本設定が有効となります。

*旧 INS64ST/U ボード[WBD657]とは仕様が異なりますのでご注意願います。



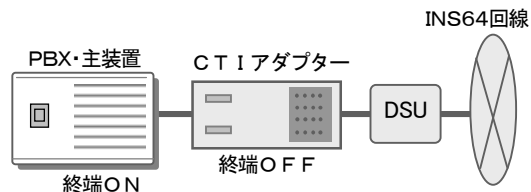
(2) 接続形態

■DSU-後位端末との間に挿入設置

DSUと端末との間に挿入設置する構成では、MX-6000の全機能を使用することが出来ます。

*擬似スルーモードでご利用の場合は必ず挿入設置としてください。

(擬似スルーモード：着信接続制御、ハンドセットアダプターを使用する等)



接続にLANケーブルを使用する場合は、カテゴリ5（100BASE-TX）、ストレート全結線です。

INS64対応と明記されているものをご使用願います。

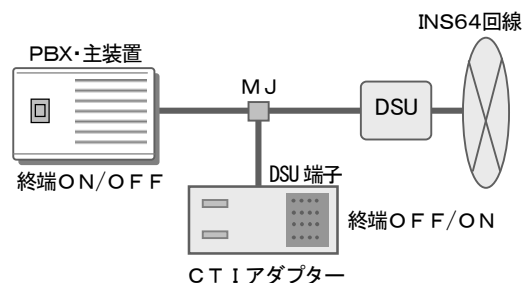
*適合ケーブル長にご注意願います。

■S/Tラインにバス接続する

バス接続する場合の動作モードは「スルーモニターモード」に限定されます。

- ・発信者番号等の番号情報および回線情報取得
- ・通話録音
- ・代行自動応答
- ・自動発信

の機能が使用出来ます。



※MJからの距離が遠い機器の端末をONにします。

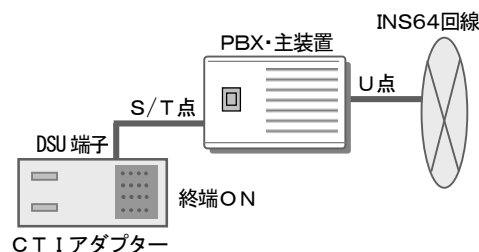
■PBX・主装置のS/T出力に接続する

PBX・主装置のS/T端子に接続する場合の動作モードは、「スルーモニターモード」に限定されます。

本接続では、PBX・主装置の機種によっては正常に動作しない場合があります。

動作する場合でも使用できる機能が制限される場合があります。

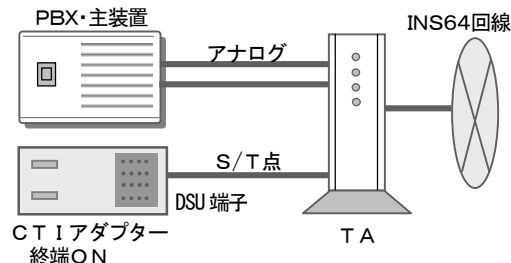
別途、お問い合わせ願います。



■TAのS/Tに接続する

DSU内蔵TAのS/T端子に接続する場合の動作モードは、「スルーモニターモード」に限定されます。

PBX・主装置のS/T端子に接続する場合と同様、別途お問い合わせ願います。



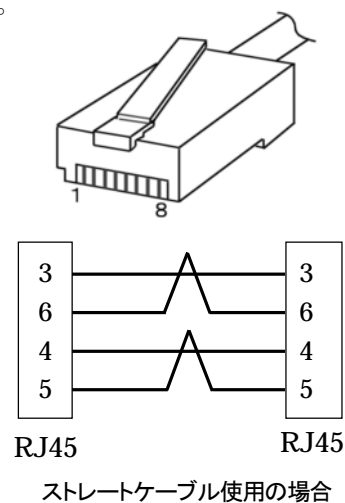
3-4-2-2. 端子配置

8極モジュージャック（R J 4 5）のピン配置は以下となっています。

端子番号	機 能	D S U端子名
3	送信+	T A
4	受信+	R A
5	受信-	R B
6	送信-	T B

※MX-6 0 0 0電源オフ時には、端子「D S U」と「端末」の同一ピンが直結となります。

※接続ケーブルはツイスト線をご使用願います。
（モジュラーピン番3と6、4と5のペア線）



3-4-2-3. 配線距離

I N S 6 4 S/Tの配線には

- 短距離バス配線
- 延長バス配線
- ポイントポイント配線

の配線形態があり、それぞれに配線長等の最大値が規定されています。

MX-6 0 0 0は、T/R線共に適応タイミング型動作をしますので、使用する動作モードによっては通常のI N S 6 4端末の規定とは若干異なります。

1) スルーモニターモード

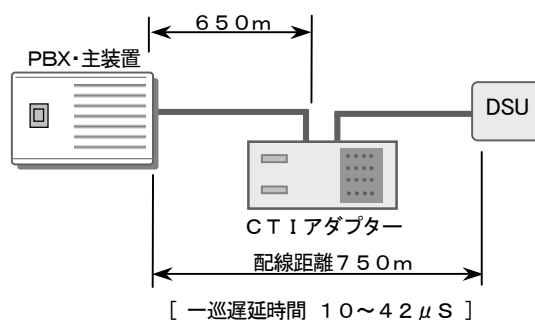
スルーモニターモードで運用される場合には、「D S U-後位端末間に挿入設置」および「バス接続」のどちらの場合も同じ配線規定となり、自端末動作の使用の有無により配線長の規定が異なります。

*自端末動作：「自動応答」「着信制御」「発信」等、I N S 6 4端末装置として動作する場合。

【自端末動作を使用しない場合】

発信者番号および通話開始・終了等の取得のみ行い、I N S 6 4端末として動作しない場合には、配線形態に関係無く、後位端末までの距離6 5 0 m内の任意の箇所に設置可能です。

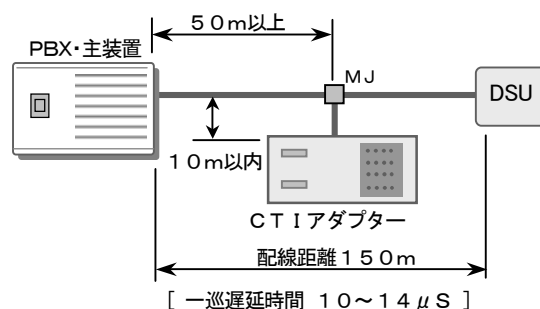
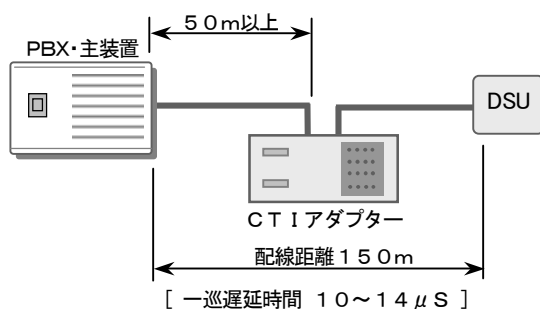
「既存設置がポイントポイント配線の場合」



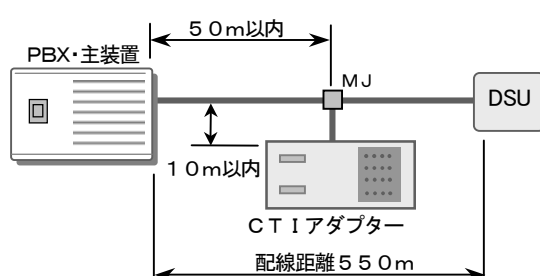
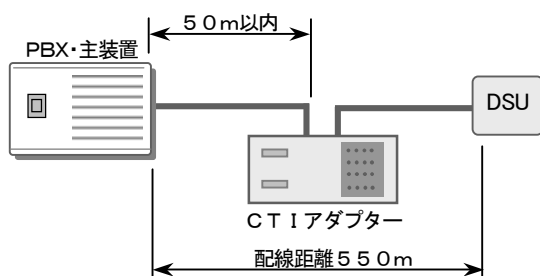
【自端末動作を使用する場合】

自端末動作を使用する場合は、一般の「バス接続」規定が適用されます。

■PBX・主装置から50m以上に設置



■PBX・主装置から50m以内に設置

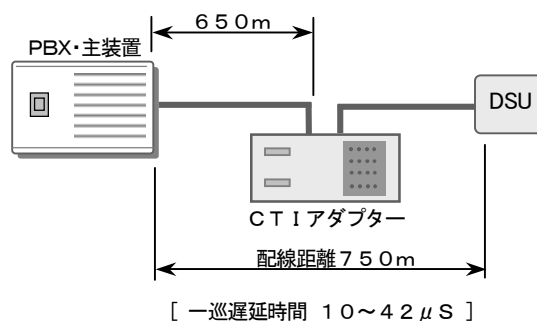


2) 擬似スルーモード

擬似スルーモードではMX-6000からPBX・主装置までの配線距離650m以内の任意の個所に設置出来ます。

※擬似スルーモードでは、挿入設置が必須となります。

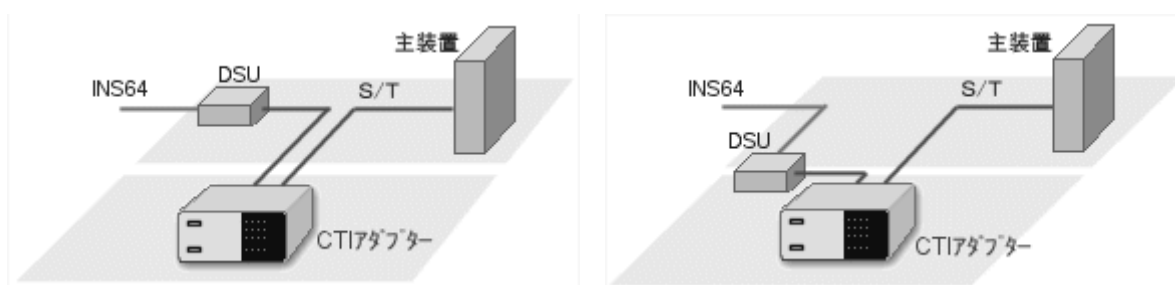
(擬似スルーモード=着信接続制御、ハンドセットアダプターを使用する等)



■設置箇所が長距離の場合

「スルーモニターモード」、「擬似スルーモード」共に挿入設置する形態では、MX-6000への入出力線長が加算されます。

総配線長750mを越えないようご注意ください。



* 750mを越える場合には、DSUをMX-6000の近くに設置してください。

* 750m以内であっても長距離となる場合には、DSUをMX-6000の近くに設置される構成を推奨します。

※一巡遅延時間

DSUのT点側で見た送出パルス列（フレーム）に対する受信パルス列の応答遅延時間で、端末内の遅延（10.4μs一定）とケーブルでの遅延の合計時間です。

■配線距離と芯線径

芯線径(mm)	0.4	0.5	0.65
短距離バス配線	150m	150m	150m
延長バス配線	200m	350m	550m
ポイントーポイント配線	350m	550m	750m

3-5. INS1500ボード(WBD659) 接続

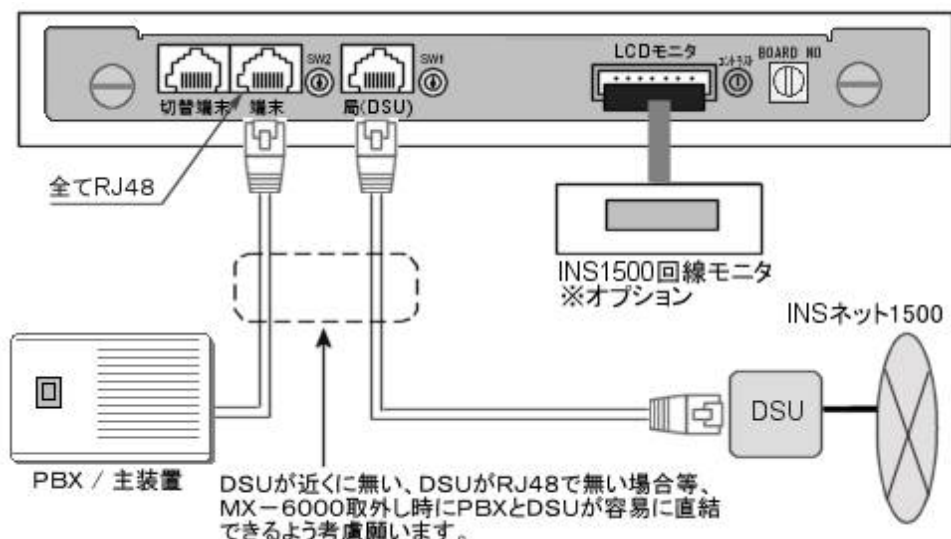
既設のPBX-DSU間への挿入設置、または分岐接続が可能です。

*接続形態はCTIアプリケーションの仕様に依存しますので、システム販売会社様にご確認願います。

3-5-1. 挿入設置

MX-6000が回線制御を行うシステムでは挿入設置が必須となります。

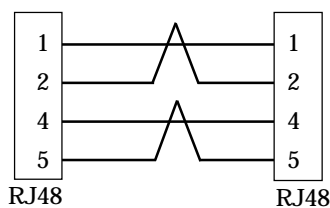
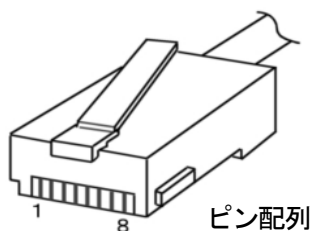
- 接続工事はMX-6000電源断状態で行ってください。
- 電源断状態では、モジュージャック「局(DSU)」と「端末」の同一端子間が直結となります。
接続完了後、電源断状態のまま発信・着信が正常に動作する事を確認してください。
- 接続ケーブルはツイスト線をご使用願います。(モジュラーピン番1と2、4と5のペア線)
- ケーブル長は局(DSU)側、端末側いずれも200m以内としてください。
- MX-6000とPBX・主装置とのアースは必ずしも接続する必要は有りませんが、設置後の接続が容易となる様に工事の段階から配慮願います。



■端子配置

ピン番号	名称	MX-6000局側モジュラー	MX-6000端末側モジュラー
1	RA	局(DSU)から受信	端末へ送信
2	RB	〃	〃
4	TA	局(DSU)へ送信	端末から受信
5	TB	〃	〃

※接続ケーブルはツイスト線をご使用願います。(モジュラーピン番1と2、4と5のペア線)



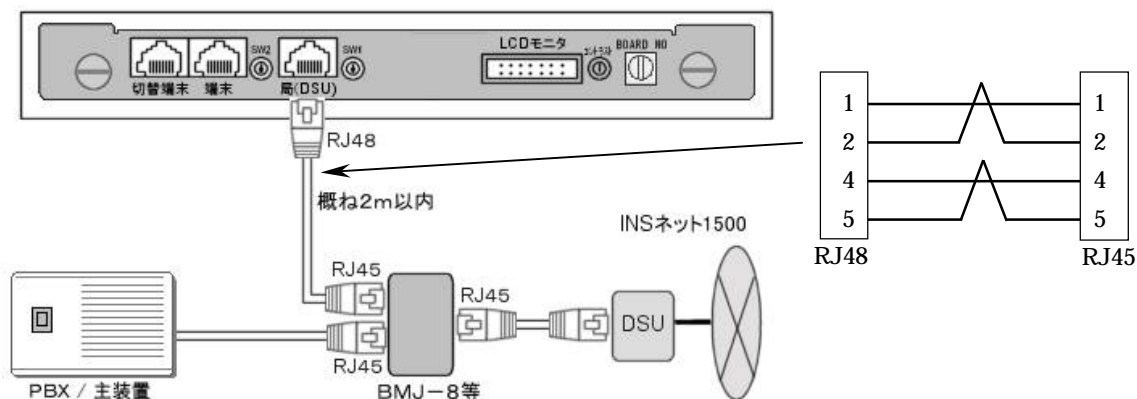
※一般的にはMX-6000とDSUとの接続は、ストレートケーブルを使用します。

3-5-2. 分岐接続

番号情報（発信者番号、ダイヤルイン番号等）、通信情報（通話開始・終了等）の取得、および通話録音機能のみをご利用の場合には分岐接続が可能です。（挿入設置でも動作します）

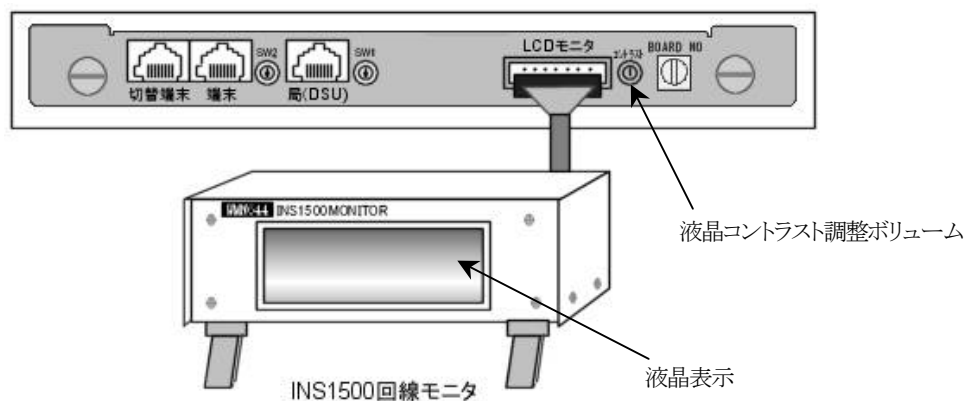
下図では、ISDN対応2分岐コネクタ「BMJ-8」を使用し分岐しています。

MX-6000への分岐ケーブルは、概ね「2m以下」としてください。



3-5-3. INS1500回線モニター（オプション）

INS1500ボードに接続し、各CHの使用状態、局・端末側の回線品質、Dch状態およびエラー詳細表示を行います。



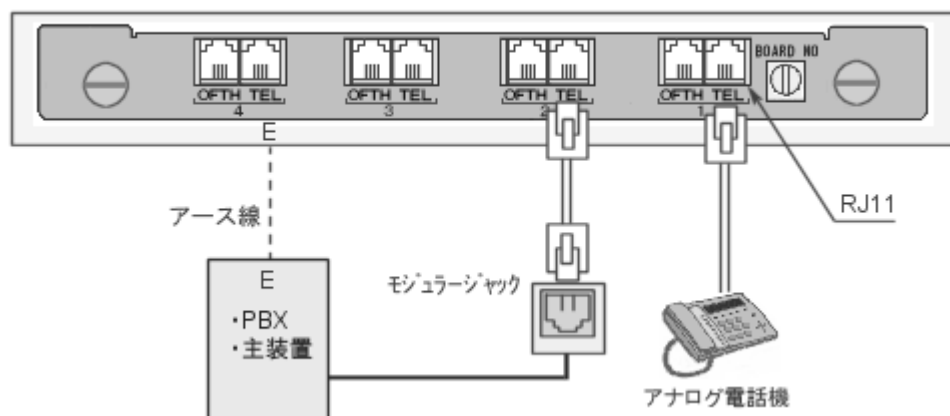
INS1500回線モニターからのケーブルコネクタをINS1500ボード背面の「LCDモニタ」コネクタに接続します。

ケーブル側コネクタの▲マーク位置を合わせて、両サイドのロックレバーがロックされる位置まで押し込んでください。

外す時は、両サイドのレバーを摘んで先端のロックが開いた状態で引き抜いてください。

■詳細はINS1500回線モニター付属の説明書を参照願います。

3-6. アナログ内線ボード/B F (WBD664) 接続



①アナログ端末機器を「TEL」端子に6極モジュラーケーブルで接続します。

②本体、増設ユニットのアース端子と、PBX・主装置のアース端子（回線アース）を接続してください。

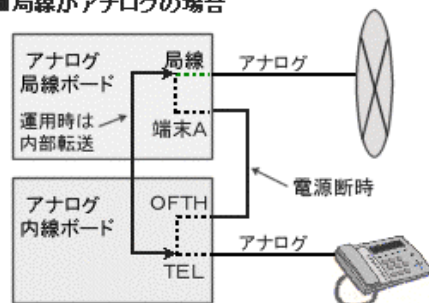
●バックアップ接続

アナログ内線ボードは通常局線ボードとセットで使用します。

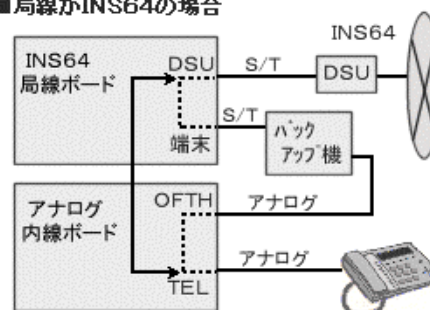
運用中は内部転送ラインにて通話を行いますが、MX-6000電源断とした場合には転送ラインが機能しませんので、外部にて通話ラインを確保する必要があります。

MX-6000電源断時には「OFTH端子」と「TEL端子」の同一ピンどうしが直結となります。

■局線がアナログの場合



■局線がINS64の場合



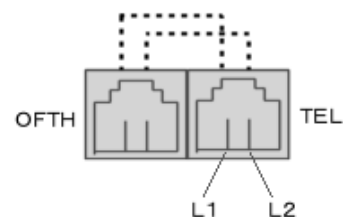
INS64の場合は、バックアップ機を使用し通話ラインを確保します。

※バックアップ機：INS64-アナログ変換可能な機器で、MX-6000またはTA等を使用します。

TAでPBX・主装置に接続する場合には事前の動作確認が必要です。

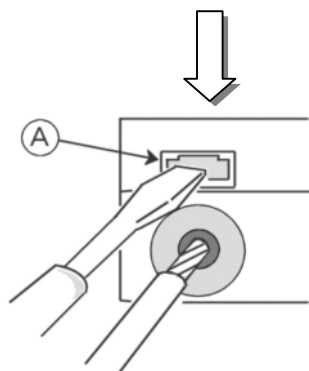
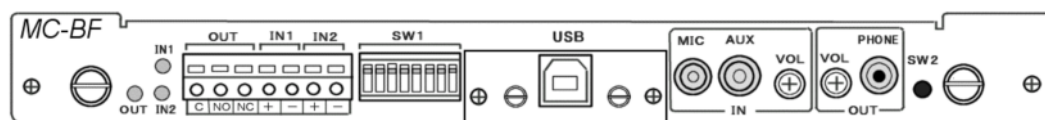
●ピン配置

	L 1	L 2
待機中	接地	-48V
着信（極反）	-48V	接地



3-7. 外部入出力信号の接続

本体ユニットCPUボードには、センサー等の外部信号を取り込む為の入力端子が2点、警報装置等へ出力するリレー接点出力端子が1点あります。どちらもワンタッチで接続可能なスクリーレス方式の端子です。



①先の細い（－）ドライバー等で(A)を押しながら、ケーブルを奥まで押し込んでください。

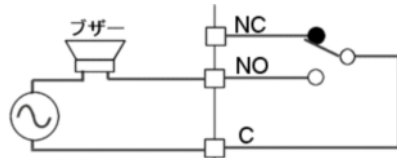
②ドライバーを離し、ケーブルを軽く引っ張り、完全にロックがかかっている事を確認してください。

【注意】

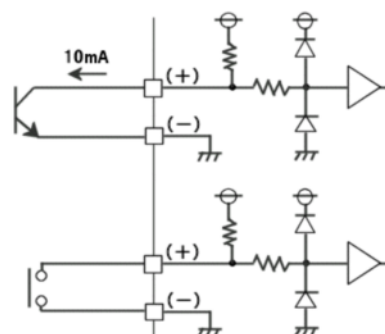
- 定格電圧、定格電流の範囲内でご使用ください。定格内のご使用であっても、接続電線に適合する電流でのご使用となります。
- 電線の接続、解除は電源を切った状態で行ってください。
- 使用可能電線以外の電線は、入れないでください。
- 電線は「1.1mm」に剥いてください。
- 電線は1つの挿入口に対し、1本としてください。2本以上接続すると不具合の原因となります。
- 電線の接続、解除の際はボタンを押しながら接続、解除を行ってください。
- ボタン操作の回数は、端子台の電線接続回数に相当します。操作回数は数十回程度とお考えください。
- 仕様欄に、電線の径、断面積を表示しておりますが、mm と AWG とが一致しない場合には mm の方を適用してください。

【接続例】

●警報ブザーの接続



●各種センサー等の接続

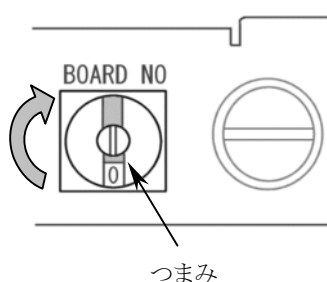


4. BOARD NO 設定

各回線ボードには「BOARD NO」を設定するコードスイッチが有ります。

この「BOARD NO」設定により、PCとの通信で使用されるCH番号1～60が決定します。

*MX-6000-4Cでは出荷時設定(0)のままご使用願います。



BOARD NO	INS64 回線 1		INS64 回線 2	
	回線 1	回線 2	回線 3	回線 4
0	CH1	CH2	CH3	CH4
1	CH5	CH6	CH7	CH8
2	CH9	CH10	CH11	CH12
3	CH13	CH14	CH15	CH16
4	CH17	CH18	CH19	CH20
5	CH21	CH22	CH23	CH24
6	CH25	CH26	CH27	CH28
7	CH29	CH30	CH31	CH32
8	CH33	CH34	CH35	CH36
9	CH37	CH38	CH39	CH40
A	CH41	CH42	CH43	CH44
B	CH45	CH46	CH47	CH48
C	CH49	CH50	CH51	CH52
D	CH53	CH54	CH55	CH56
E	CH57	CH58	CH59	CH60
F	—	—	—	—

※「BOARD NO」は装着するスロットの位置とは関係有りません。任意の値に設定出来ます。

※「BOARD NO=F」は設定出来ません。(未実装扱いとなります)

※INS64 回線では1回線で2ch使用できます。PCへ通知されるCH番号は音声通話で使用されるBch (B1/B2) により決定します。

B1がCH1,3・・・、B2がCH2,4・・・となります。

【注意】 複数ボード実装時に「BOARD NO」を重複して設定しないようにしてください。
重複したまま使用されますと故障の原因となります。
* 重複した状態では、ボード未実装と認識されます。

■INS1500の場合

INS1500ボードの場合は、「設定値×4+1」を先頭CHとし、24CH分を占有します。

よって、「設定値+5」の範囲は、他のボード(アナログ、INS64、INS1500)は使用することが出来ません。

また、INS1500ボードの設定値の最大は「9」となります。

5. 増 設

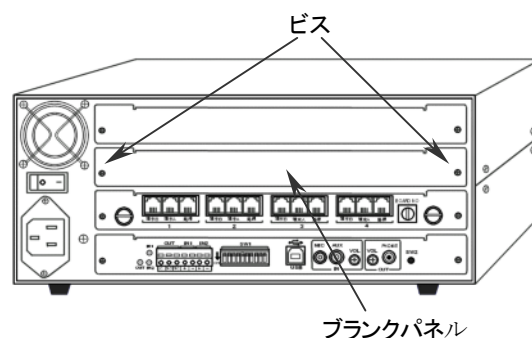
5-1. 基板増設

①増設する基板の「BOARD NO」を実装されている基板の番号以外に設定します。

※番号が重複したまま運用されますと、故障の原因となります。(LEDにて警告表示します)

②増設する位置のblankパネルの固定ビスを
(+)ドライバーではずしてください。

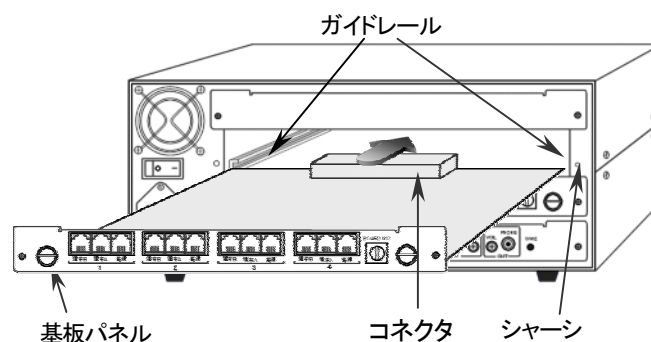
取り外したビスは、新規挿入する基板の固定に
使用します。



※空きスペースが複数箇所ある場合は、どちらに挿入されても動作に影響はありません。

③増設する基板を本体左右のガイドレールの
溝に確実に差し込み、そのまま奥まで滑
らしてください。

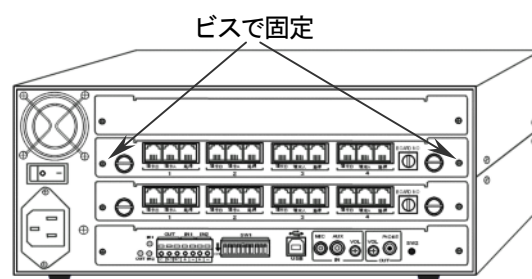
本体マザーのコネクタと基板のコネクタ
が当たりますのでそのままシャーシと基
板パネルが接触するまで強く押し込んで
ください。



※確実にガイドレールの溝に入ったことを確認してください。

溝から外れた状態で無理やり挿入するとコネクタ部が破損する場合があります。

④blankパネルを取り外した時のビスで挿入し
た基板パネルをシャーシに固定してください。



※基板パネルは必ずビスで固定してください。 固定せず運用されますと誤動作の原因となります。

■基板を取り外す場合は、逆の手順で外してください。

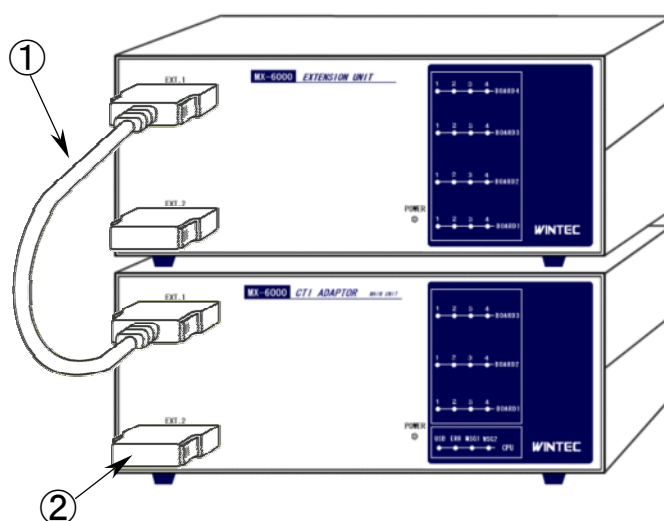
※MX-6000-4Cは増設出来ません。

5-2. ユニット増設

①増設するユニットを設置後、「ユニット間接続ケーブル」をEXT 1またはEXT 2のコネクターに接続してください。

接続するコネクターは、「EXT 1-EXT 1」「EXT 2-EXT 2」「EXT 1-EXT 2」のどのコネクターに接続しても動作に影響有りません。

【注意】 ユニット増設する場合は、必ずユニットの電源を切って作業してください。



②空いているコネクターに、ターミネータを接続してください。

【注意】 ターミネータは、必ず2個取り付けてください。
片方だけ、またはターミネータ無しの状態では誤動作の原因となります。

*ユニット間接続ケーブル、ターミネータは別売りとなっています。

*本体ユニットのみで運用される場合には、ターミネータは必要ありません。

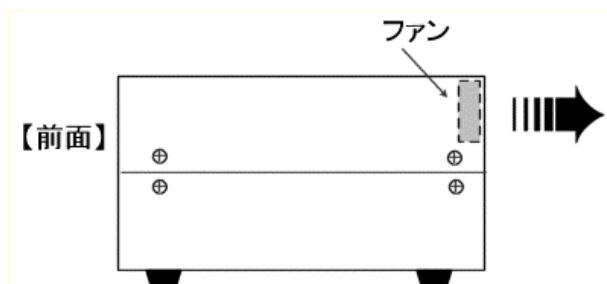
【注意】 不安定な場所には置かないでください。
ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。

※MX-6000-4Cは増設出来ません。

6. 保守・点検

6-1. MX-6000保守・点検

- 1) 定期的に本体ユニット、増設ユニットともに裏面ファンが正常に回転していることを確認してください。
また、壁などで塞がれないよう十分に注意してください。



*ファンが停止している場合、アナログ局線ボードのみご使用の場合は、温度上昇はあまり問題になりませんが、その他のボードをご使用の場合は、温度上昇により故障または寿命の低下となりますので、速やかに電源を切り、弊社まで連絡ください。

- 2) 定期的に前面パネルのLEDランプ点灯状況を確認してください
*「本体ユニットー前面パネル」LEDの説明を参照願います。
*LED不良そのものは機器の動作には影響ありません。

6-2. MX-6000-4C保守・点検

定期的に前面パネルのLEDランプ点灯状況により動作を確認してください

- *「本体ユニットー前面パネル」LEDの説明を参照願います。
- *LED不良そのものは機器の動作には影響ありません。

7. アフターサービスについて

ご購入後1年間は、製造側に起因する不具合、部品等の初期不良に関しましては無償で修理いたします。ただし、保証期間内であっても、以下の場合には有償とさせていただきます。

- (1) ご使用側に起因する不具合、故障。
- (2) 火災・地震・水害・落雷・その他の天変地異、公害や異常電圧による不具合、故障。
- (3) ご購入後の輸送・移動時の落下等、お取扱いが不適当なため生じた不具合、故障。
- (4) 本機に接続された周辺機器障害等の影響による不具合、故障。

●分解、改造された場合、以後の修理やお問合せには応じられない場合があります。

保証期間の1年経過後の修理につきましては、修理によって使用できる場合には、ご要望によって有償で修理させていただきます。

■本機器の故障・誤動作または外部要因等により、利用の機会を逸したために発生した損害等の付随的補償については当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

8. 仕 様

8-1. MX-6000本体ユニット仕様

収容回線数	各回線ボード（アナログ、INS64、内線）3枚収納可（アナログ換算12回線） *INS1500ボードは2枚まで収納可 *初期実装：0枚 *ユニット増設により最大60回線まで増設可能（アナログ換算） *増設ユニットとは、専用ケーブルにて接続		
PCインターフェース	USB1.1 / USB2.0		
外部入出力	接点出力：リレー接点1 入力：2点		
	■端子仕様		
	定格適合電線	単線φ1.2mm(AWG16) 撚線1.25mm ² (AWG16) 素線径φ0.18以上	
	使用可能電線範囲	単線：φ0.4mm(AWG26)～φ1.2mm(AWG16) 撚線：0.3mm ² (AWG22)～1.25mm ² (AWG16) 素線径φ0.18以上	
	標準剥き線長	11mm	
	■リレー接点仕様		
	定格制御容量 （抵抗負荷）	1 A30V DC 0.5A 125V AC	
	最大許容電力 （抵抗負荷）	30W(DC), 62.5VA(AC)	
	最大許容電圧	110V DC 125V AC	
	最大許容電流	1A	
	最小適用負荷	10uA 10mV DC	
音声録音端子	マイク入力（3.5φステレオミニジャック）、オーディオ入力（ピンジャック）		
音声モニター	PHONE出力（3.5φステレオミニジャック） *任意chのモニター可能 *接続ヘッドフォン条件：入力インピーダンス16Ω以上		
電 源	AC100V±10%（本体ユニット／増設ユニット）		
消費電力	70W max *アナログ内線ボード実装時		
動作環境	温度 0～40℃ 湿度 10～80%（非結露）		
重 量	約3kg *最大実装時4.2kg		
外形寸法	280（w）×120（h）×194（d） *ゴム足含む *後面基板突起物含まず		

8-2. MX-6000増設ユニット仕様

収容回線数	各回線ボード（アナログ、INS64、内線）4枚収納可（アナログ換算16回線） 初期実装：0枚		
電 源	AC100V±10%		
消費電力	80W max *アナログ内線ボード実装時		
動作環境	温度 0～40℃ 湿度 10～80%（非結露）		
重 量	約2.7kg *最大実装時4.2kg		
外形寸法	280（w）×120（h）×194（d） *ゴム足含む *後面基板突起物含まず		
オプション	増設ユニット接続ケーブル（0.3m, 0.6m, 1m） ターミネータ（2個必要）		

8-3. MX-6000-4C本体仕様

収容回線数	・アナログ局線ボード/Z：4回線 ・INS64ST/Uボード：2回線（4B） 上記いずれか1枚収納	
PCインターフェース	USB1.1 / USB2.0	
外部入出力	接点出力:リレー接点1 入力:2点	
	■端子仕様	
	定格適合電線	単線 $\phi 1.2\text{mm}$ (AWG16) 撚線 1.25mm^2 (AWG16) 素線径 $\phi 0.18$ 以上
	使用可能電線範囲	単線: $\phi 0.4\text{mm}$ (AWG26) $\sim \phi 1.2\text{mm}$ (AWG16) 撚線: 0.3mm^2 (AWG22) $\sim 1.25\text{mm}^2$ (AWG16) 素線径 $\phi 0.18$ 以上
	標準剥き線長	11 mm
	■リレー接点仕様	
	定格制御容量 (抵抗負荷)	1A 30V DC 0.5A 125V AC
	最大許容電力 (抵抗負荷)	30W (DC), 62.5VA (AC)
	最大許容電圧	110V DC 125V AC
	最大許容電流	1A
	最小適用負荷	10uA 10mV DC
音声録音端子	マイク入力(3.5 ϕ ステレオミニジャック)、オーディオ入力(ピンジャック)	
音声モニター	PHONE出力(3.5 ϕ ステレオミニジャック) *任意chのモニター可能 *接続ヘッドフォン条件:入力インピーダンス 16Ω 以上	
電 源	AC100V $\pm 10\%$	
消費電力	10W max	
動作環境	温度 0 $\sim 40^\circ\text{C}$ 湿度 10 $\sim 80\%$ (非結露)	
重 量	約1kg	
外形寸法	292(w) \times 69(h) \times 189(d) *ゴム足含む *後面基板突起物含まず	

8-4. I N S 6 4 S T Uボード/B F (WBD667)／I N S 6 4 S Tボード/B F (WBD665)仕様

■ I N S 6 4 U点インターフェース仕様	
適応回線	I N S 6 4 (U点)
回線数	2回線 (4 B)
局線接続方式	6極モジュージャック×2 (R J 1 1)
インターフェース構造	2 B + D (基本インターフェース)
インターフェース形態	P - P、P - MP
レイヤ1起動種別	常時起動、呼毎起動
接続端末種別	I N S 6 4 端末 (U点)
端末接続方式	6極モジュージャック×2 (R J 1 1)
端末直流供給電圧	6 0 V + 5 % - 2 0 % *無負荷時
端末直流供給電流	3 9 ± 4 mA
端末送出極性	局極性と同一
端末送出パルス電圧	4 . 5 ± 0 . 5 V
受信許容線路減衰量 (160 K H z)	6 d B以下
端末許容直流抵抗 (線路抵抗含む)	1 k Ω以下
■ I N S 6 4 S / T点インターフェース仕様	
適応回線	I N S 6 4 (S / T点)
回線数	2回線 (4 B)
局線接続方式	8極モジュージャック×2 (R J 4 5)
インターフェース構造	2 B + D (基本インターフェース)
インターフェース形態	P - P、P - MP
レイヤ1起動種別	常時起動、呼毎起動
接続端末種別	I N S 6 4 端末 (S / T点)
端末接続方式	8極モジュージャック×2 (R J 4 5)
■ 共通仕様	
番号情報取得	Dチャンネル
情報取得	ナンバーディスプレイ/ダイヤルイン番号/ネームディスプレイ/転送元番号 サブアドレス/ユーザ・ユーザ間情報/ i ナンバー 着信回線状態の取得 (呼出し中/通話開始・終了/相手途中放棄) 外線発信時の情報取得 (発信先電話番号/呼出し中・話中/通話開始・終了/中断)
録音/再生フォーマット	8 bit μ L A W、サンプリング周波数 8 k H z
D T M F 検出/送出	0 ~ 9、*、#、A B C D
C H 間結合	全てのボードの任意のチャンネル (6 0 C H) と可能

8-5. アナログ局線ボード/B F (WBD663) 仕様

適応回線	2線式一般公衆アナログ回線 (P B、D P)
回線数	4回線
局線接続方式	6極モジュラージャック×4 (R J 1 1)
接続端末種別	アナログ端末
端末接続方式	6極モジュラージャック×4 (R J 1 1) *WBD633 仕様時は4×2 (A/B) *Bポート使用時は端末直流供給無し。
端末直流供給	3.6～5.3V (開放時) 2.0～5.0mA (350～500Ω *端末直流抵抗+線路抵抗) ※局-端末分離時のみ供給。他は局-端末スルー。 ※MX-6000 本体制御ソフトが端末直流供給に対応している場合のみ。
番号情報取得	V. 23 (1200bps)
情報取得	ナンバーディスプレイ/ダイヤルイン番号/ネームディスプレイ/転送元番号 着信回線状態の取得 (呼出し中/通話開始・終了/相手途中放棄) 外線発信時の情報取得 (発信先電話番号/呼出し中・話中/通話開始・終了/中断)
録音/再生フォーマット	8bit μ LAW、サンプリング周波数8kHz
DTMF検出/送出	0～9、*、#、ABCD
400Hz トーン検出/送出	BT、RBT、DT他
CH間結合	全てのボードの任意のチャンネル (60CH) と可能

8-6. INS1500局線ボード(WBD659) 仕様

適応回線	INSネット1500 *23B+D
回線数	1回線 (最大2回線)
局線接続方式	8極モジュラージャック (R J 4 8)
接続端末種別	INS1500端末
端末接続方式	8極モジュラージャック×2 (R J 4 8) *電源断時は局線-端末スルー
情報取得	ナンバーディスプレイ/ダイヤルイン番号/ネームディスプレイ/転送元番号 発着サブアドレス/ユーザ・ユーザ間情報 着信回線状態の取得 (呼出し中/通話開始・終了/相手途中放棄) 外線発信による情報取得 (発信先電話番号/呼出し中・話中/通話開始・終了/中断)
録音/再生フォーマット	8bit μ LAW、サンプリング周波数8kHz
DTMF検出/送出	0～9、*、#、ABCD
CH間結合	全てのボードの任意のチャンネル (60CH) と可能

8-7. アナログ内線ボード/B F (WBD664) 仕様

回 線 数	4回線
端末接続方式	6極モジュラージャック×4 (R J 1 1)
直 流 供 給	－48V
極 性 反 転	有り (切断信号サポート)
モデム送出	V. 2 3 (1200bps) ナンバーディスプレイ、モデムダイヤルイン等の通信前情報通知サービス対応
回 線 種 別	DP, PB対応
R i n g 信号	75V正弦波
トーン信号送出	DT、SDT、BT等
DTMF 送出・検出	0～9, *, #, A, B, C, D 従来型PBダイヤルイン対応可能
CH間結合	全てのボードの任意のチャンネル (60CH) と可能

※本説明書の内容および上記仕様は、予告無く変更される場合がありますのでご了承願います。

■MX-6000 CTI ADAPTOR
■MX-6000-4C CTI ADAPTOR
(USB2.0 版)

取扱説明書

2006年 6月 1. 0版 (初版)
2022年 3月 4. 1版

株式会社ウィンテック

〒761-0301 香川県高松市林町230番地6 極東ビル2F

TEL 087(869)3081

FAX 087(869)3082

URL <http://www.k-wintec.co.jp>

E-mail info@k-wintec.co.jp